基本戦略

1. 新たな「Kansaigaidai University」の追求・共有・浸透からブランディングへ

(1)「Kansaigaidai Universityへの進化」を、向こう10年のビジョンを実現化する基本戦略の中核とし、全学一致の旗印・象徴・合言葉として位置づける。

(2)これまでの「外国語大学＝単科大学」意識によるニッチな市場志向や、総合大学との安易な競合志向とは決別し、本学教職員自らがKansaigaidai Universityという考え方を追求・共有・浸透する仕組みづくりに努め、意識改革につなげる。

(3)教職員の意識変化を対外的な本学ブランド力向上のエンジンとして機能させつつ、中期計画や年次計画の末端にまでKansaigaidai Universityの浸透を図り、戦略的広報の推進によって、ブランディングの構築をめざす。

2. 「変幻自在の人間学」＝「時代に即応した『実学』」プログラムの再構築

Kansaigaidai Universityという概念を支えるのが「変幻自在の人間学（注1）」を志向する「リベラルアーツ（＝自由人たるべく有する知の技法であり、人生を創造的に生きるための拠り所となる叡智）」教育であり、その精髄は、時代の精神・息吹を柔軟に反映させながら、豊かな言語力（注2）を背景に、クリティカルかつクリエイティブに物事に取り組み、新たなものを創出する力を育むところにある。

(1)人文科学、社会科学、自然科学、芸術学を自由に横断し、既成の分断的な学問体系にとらわれない統合的、総合的な思考方法を身につけ、自己の専門性の構築へとつなげる。

(2)自己を磨く力すなわち自己教育力、自己を絶えず発展させる力すなわち自己成長力、そして自己のキャリアを創造的に創り出すキャリア形成力を育成する。

(3)絶えず変わりゆく世の動きを俯瞰的に見つめ、物事の本質を論理的、客観的に突き止めて、積極的に取り組むべき課題を選別する力を育成する。

(4)異文化をクリティカルに横断し、グローバル化の時代にあって、異なる国や文化、民族、歴史、宗教への洞察力と、異なる価値観への寛容さを醸成し、卓越したコミュニケーション力を身につける。

(5)自己と他者の有機的な相互進化というリベラルアーツの精神にのっとった社会的貢献への取り組みをめざす。

(6)社会の構成員としての人間力、付加価値、キャリアを身につけさせ、どのような状況にあっても、自律して、逞しく生きていくことが可能な学生を世に送る。

注1：「建学の理念」に謳われる本学開学以来の「実学」は、「人間の根本的あり方」を問う精神、つまり「人間学」の精神を根底に据え、時代時代の精神・息吹に呼応して、各時代の要請を踏まえた最適なものを教育内容として提供してきた。そのありようを、ここでは「変幻自在の人間学」と呼んでいる。 注2：リベラルアーツ教育の根幹をなすのが言語力の3つの柱（文法［＝文語、口語を問わず言語を理解する力］と、レトリック［＝表現力］と、論理学［＝論理的・批判的思考力］）の育成である。この場合の言語とは、母語、外国語のいずれも含む。

3. 入試面、教学面、就職面を全学一体で躍進させる

(1)学業成績、人間性両面で質の高い学生を確保できる長期的視野に立つ入試制度。

① 2021年1月から実施の「大学入学共通テスト」への対応と同時に、質の高い学生の確保に向けた、入試の方法、内容とする。 ② 他大学と競合する受験生を確保するとともに、さらなる掘り起こしのために、入試英語の出題形式において総合大学等との協調も視野に入れる。 ③ グローバル人材育成において先進的な取り組みを行っている高等学校との連携強化など、時代に即応した入試制度への取り組みを視野に入れる。

(2)時代に呼応したカリキュラムおよび学生がさらに魅力を感じる教学制度。

① 大学院、各学部・学科・コース、短期大学部が、上記戦略2を踏まえ、各々の特性を活かしたカリキュラムを検討する。 ② 教育品質を向上させるために、質の高い教員の確保・育成を継続的に図り、研究面でも成果を高める。

(3)本人・保護者が長く満足する職業選択が可能な就職支援制度。

① 一生継続して勉学する姿勢を持ち、社会的に自律した学生を育成する。 ② 低年次から卒業年次にわたる体系的なキャリア教育を推進すると同時に、日々の教育の中において、語学力とともにグローバル力を醸成するキャリア意識形成を図る。 ③ 留学と就職の連携強化を複数の担当組織が一体となり推進する。 ④ ①②③により、学生が納得のいく最適な進路選択と就職を実現する。

上記の入試面、教学面、就職面の３つを躍進させるために、全学が一体となって推進する。

4. 留学プログラム体系をニーズにあわせて進化させる

(1)学生の能力、将来への進路などに鑑み、学生の個性にあった留学が可能なように、また、留学と就職活動とが有効に連関するように、プログラム体系を検討し、他大学と比較して、常に先進性、優位性をもってリードする。そのために、留学前の教育、指導、留学中の支援、留学後のフォローを徹底し、実社会において、留学での学びを活かせるように総合的に支援する。

(2)16単位以上取得させる留学生派遣については、質、量ともに他大学とは一線を画しており、長年培ってきた成果をさらに魅力あるものにする。

(3)2030年度には、ほぼ全員の学生が何らかの留学が可能なように、海外インターンシップ・ボランティアを含めて留学の派遣数3,000人をめざす。

(4)学内の「内なる国際化」を推進し、国際通用性を高め、2030年度までに海外からの受け入れ留学生数を1,000人まで拡大する。

5. 学生からの満足度が高い支援を推進する態勢

(1)多様な学生の期待とニーズに合わせ、学生からの満足度が高い支援を「オールKansaigaidai」として推進する。

(2)正課授業をはじめ、課外活動、留学、就職、日常の活動など、あらゆる場面において、大学全体がスムーズな一つの流れになるシステムを構築するために、教学組織と事務組織が相互に協働する態勢を取る。

(3)事務組織については、学生ファーストの視点と事務効率の両面から、事務制度全般、種々の制度などを日常的に点検する。

(4)学生支援の一例として、在校生の約半分が何らかの形で利用している奨学金について、政府が推進している「高等教育の修学支援新制度」への対応と同時に、本学独自の支給奨学金制度を充実させる。社会、経済等の実態や教育制度の変化に対応し、留学関係奨学金、成績優秀者に対する奨励的奨学金、経済的困窮者に対する奨学金など、既存奨学金の再編成および新設の奨学金を検討する。これらの支給奨学金の規模については、総額14億円、延べ2,000人をめざす。

6. ICT、AIの活用により教育研究環境の整備、事務部門業務の効率化を推進する

(1)ICT、AIの活用について、教育研究環境の向上および事務部門業務の改革・効率化の両面から検討を進める。ますます発達するICT、AIの利活用により、学生の学び方、学生へのサービス機能、教育研究環境の高度化、組織の業務慣行変更・効率化など種々のイノベーションが可能になることが推測される。この有効活用の方向性を探る。

(2)事務部門の整備については、上記戦略5と連携しながら、権限の委譲や責任の明確化などにより組織力を強化すること、計画的な業務遂行や教育制度の充実により職員のマネジメント能力を高めること、これらを併せて検討する。

7. 時代の変化に応じて、新たな学部・学科等設置に取り組む

(1)次代に向けて、本学としての強みを最大限活かしつつ、他の学問領域との連携等も視野に入れた上で、時代を一歩先取りした、専門職大学等も含めて、新たな学部や学科・コースの設置など、時宜にかなうように絶えず考察する。

(2)学部、短期大学部をあわせた法人全体の学生規模は、当面現行通りとする。

8. 広く社会に貢献する

(1)本学が有する知的財産やノウハウを活かすことにより、広く社会に還元し、積極的に社会貢献する。

(2)多くの人が訪日し、世界に対して発信するチャンスである「大阪・関西万博」に向けて、本学として発信可能なことや、協力態勢、企業・地域との連携など、有効に協働する方策を早急に検討する。

(3)「大阪・関西万博」のサブテーマになっている、2015年の国連サミットで採択されたSDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」にも貢献していく。

(4)「大阪・関西万博」が本学創立80周年と重なっていることから、この機に、世界各国で活躍する同窓生のネットワーク作りを推進する。

以　上